

パトン

世界が美しい理由

4年 M・Tさん

祖父母の家のお仏壇で、子どもが笑っている。四歳で亡くなった、私の伯父さんだ。伯父さんも、生まれつき心臓が悪かった。カオルちゃんのようなひな人形はないけれど、代わりに、庭に咲くキンモクセイがあった。私たちは、祖父母から古い家を譲り受けて住んでいる。その庭に、伯父さんが生まれたときの記念樹として、キンモクセイが植えられていたのだ。

でもこのキンモクセイ、ちょっと手がかかる。枝をまめに刈り取らないと、害虫がわくのだ。去年、家をリフォームしたときに、不動産会社から植木の伐採も勧められた。庭が広くなるし、それもいいのでは、と私は思った。記念樹、と言われても、私は伯父さんに会ったことがないからピンとこなかったのだ。でもこの本で、さおりさんがカオルちゃんのためにひな人形を作ったと書いてあって、私はハッとした。祖父母はキンモクセイの刈り込みを、よく手伝ってくれた。そのときの姿が、さおりさんと重なったのだ。祖父母は、どんな想いで剪定していたのだろう。たった四年で命を落とした子どもに、できなかったこと、してあげたかったこと、全てをこめていいねいに剪定していたにちがいない。

もちろん、キンモクセイは伐採しなかった。それでよかったと、今の私は思えた。キンモクセイはたくさん存在する。でも、私にとって庭のキンモクセイは特別になったからだ。初め、ほかのマグノリアはどうでもいと言っていた圭も、「白き谷」を見たら美しく感じた。そこに咲くマグノリアが、圭には特別になったからだろう。そして、柳さんの友達が植えるマグノリアも、圭には特別になっていく。こうして「特別」が増えることで、この世界はもっと美しく見えていく。いつか柳さんがこの世を去っても、その想いは変わらないだろう。この世界には、たくさんの人が生きていて、そのような場所があふれるほどにあるにちがいない。この美しい世界は、故人の想いでできている。それに気がつき、パトンとすることで、彼らは永遠の命を手に入れるのだ。だから私は、これから身の周りの「特別」を探すようにしよう。